

令和2年度静岡市協働パイロット事業の実施に関する実態調査

団体名：ミナトブンカサイ実行委員会

調査目的

本調査は、令和2年度静岡市協働パイロット事業における本市と市民活動団体との協働の実態や課題等を調査し、本市の市民協働施策に役立てることを目的とします。

設問

問1 協働事業の計画から実施までのプロセスについて、次の表にしたがって評価してください。

(評価…1：よくできた 2：ある程度できた 3：あまりできなかった 4：できなかった 5 該当しない)

		評価欄	
事業成果・波及効果	1	事業目的や市民ニーズの充足を達成することはできましたか。	2
		(評価理由)：コロナ禍により、当初の計画を大幅に変更せざるをえなかった	
	2	協働での事業実施により、単独で実施するよりも成果が上がりましたか。	3
		(評価理由)：対面での事業が全くできず、次郎長200年事業も中止となった	
	3	市民活動団体の先駆性、創造性を活かした事業実施ができましたか。	2
		(評価理由)：仕様書を変更し、対面での事業に代えて、HP作成や大学での作業で対応した	
	4	事業は当初の目的・予定どおりに実施することができましたか。	4
		(評価理由)：上記1, 2, 3参照	
	5	当初の予算の見積もりは適正でしたか。	4
		(評価理由)：上記1, 2, 3参照	
	6	実施した事業は今後、本格実施（継続実施）への発展性が見込まれますか。	2
	(評価理由)：清水港周辺のまちづくりは継続中であり発展性は大きい		

問2 協働事業の実施によって得られた成果や課題について下欄にお書きください。

協働して事業を行うことで得られた成果

2020年度は、大幅な計画の変更をしたが、仕様書の変更、予算の使い方に関しては、柔軟性があり問題はなかった。変更後のHPの作成、マップの作成、茶箱の製作は順調に進んだ。

協働して事業を行う上での課題

2020年度は、当方だけでなく、市側の事業見直し（海洋文化拠点、次郎長生誕200周年事業）も重なった。

問3 令和2年度静岡市協働パイロット事業で実施した事業について、令和3年度以降も継続して事業を実施する予定はありますか。

- ① 現在実施している
- ② 今年度実施する予定である
- ③ 今年度は実施しないが、来年度以降実施する予定である
- ④ 実施する予定はない

問4 問3で①、②、③と回答した方にお聞きします。貴団体が実施している、又は予定している事業の内容について、簡潔にお書きください。

次郎長通り商店街、清水銀座商店街と連携し、2020年度パイロット事業で製作した茶箱等を利用しながら、まちづくりに取り組んでいる。  
日の出埠頭の倉庫についても、所有者等と連携して、継続的に関わっている。

設問は以上です。

御協力いただきありがとうございました。

お問い合わせ・提出先 静岡市 市民局 市民自治推進課

担当：青山、大石

〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1

TEL：054-221-1372 FAX：054-221-1538

メールアドレス：shiminjichi@city.shizuoka.lg.jp

令和2年度静岡市協働パイロット事業の実施に関する実態調査

担当課名： 海洋文化都市政策課

**調査目的**

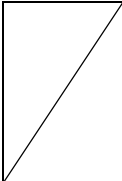
本調査は、令和2年度静岡市協働パイロット事業における本市と市民活動団体との協働の実態や課題等を調査し、本市の市民協働施策に役立てることを目的とします。

**設問**

問1 協働事業の計画から実施までのプロセスについて、次の表にしたがって評価してください。

(評価…1：よくできた 2：ある程度できた 3：あまりできなかった 4：できなかった 5 該当しない)

		評価欄	
事業 成果 ・ 波及 効果	1	事業目的や市民ニーズの充足を達成することはできましたか。	2
		(評価理由)：コロナ禍で、予定された関連イベントが中止となるなど、難しい環境であった。	
	2	協働での事業実施により、単独で実施するよりも成果が上がりましたか。	1
		(評価理由)：海洋文化都市政策課だけでなく、清水区役所、観光課などにも関連する横断的な取り組みを市民グループ側で展開してくれた。	
	3	市民活動団体の先駆性、創造性を活かした事業実施ができましたか。	1
		(評価理由)：本団体では、大学研究室単位による取り組みにより、若者の視点から、創造的なアウトプットを生み出していた。	
	4	事業は当初の目的・予定どおりに実施することができましたか。	3
		(評価理由)：当初の関連イベントが開催されていれば、更なる活動効果があったと思われる。	
	5	当初の予算の見積もりは適正でしたか。	2
		(評価理由)：適宜調整されていたと感じる。	
6	実施した事業は今後、本格実施（継続実施）への発展性が見込まれますか。	2	

	(評価理由)：コロナの経験を糧にして、遠隔地の有志に地域づくりに協力してもらおう方法を今後も見出していきたい。	
--	---	---

問2 協働事業の実施によって得られた成果や課題について下欄にお書きください。

協働して事業を行うことで得られた成果
外部の視点を取り入れることは、地元のまちづくりに刺激を与えることができていると感じる。また、担い手不足の解消としても、市域を越えた協働は、今後さらに進化していくとよいと感じた。

協働して事業を行う上での課題
協働する市民団体側にどのようなメリットが生まれるかを考えていく必要がある。(大学であれば、協働による教育効果など)

設問は以上です。

御協力いただきありがとうございました。

お問い合わせ 市民自治推進課 市民協働促進係

メールアドレス：shiminjichi@city.shizuoka.lg.jp

担当者：青山、大石（内線：81-2283）